

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520650

研究課題名(和文) ヨーロッパ近世都市の宗教変容に関するトポグラフィックな検討

研究課題名(英文) Topographical approach toward religious circumstances  
in early modern European cities

研究代表者

高澤 紀恵 (TAKAZAWA NORIE)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：80187947

研究成果の概要(和文)：

- 1) 複数の性格の異なる一次史料の組み合わせを通して、都市内部のミクロな空間(教区、街区)を分析する手法を確立した。
- 2) 宗教改革以降のヨーロッパにおいて、宗派を選択した個々人の軌跡を追う際、都市空間内部のトポグラフィックな分析の有効性を明らかにした。
- 3) 都市内部のミクロな関係の変容を視野に入れつつ、都市空間を全体として編成する論理の変化を、近世を通して明らかにした。
- 4) 日本とフランス、ドイツ、イギリスを専門とする日本とフランスの歴史家による共同討論を組織し、史学史的分析を通して比較史のもつ方法的可能性を日本語、フランス語で提言した。

研究成果の概要(英文)：

- 1) By combining archival and primary sources of various kinds, were able to work out a method of analyzing micro level of urban life and society carried out in parishes or districts.
- 2) Topographical methods turned out to be effective in analyzing European cities and towns, and especially in pursuing individuals who had chosen their own religion during and after the Reformation.
- 3) Viewing the alteration in micro level of urban life and society, were able to clarify the transition of logic behind construction and organization of cities and towns throughout the early modern ages.
- 4) An academic discussion has been organized between Japanese and French historians, specializing in histories of Japan, France, Germany and Britain and by going through historical analyses the possibility of comparative history as a method has been suggested in writing, both in Japanese and French.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：都市、カトリック改革、宗教改革、トポグラフィー、教区、街区、史学史、ヨーロッパ、近世

### 1. 研究開始当初の背景

本研究を構想した時期は、内外において近世ヨーロッパ史の主要テーマである宗教改革史研究の新しい成果が現れつつあった。第一には、国制史への関心にたち「宗派主義」の概念によって政治と宗教が緊密に結びついた近世国家の特質を考える動向である。

第二には近世国家を越えた人々の移動に着目する動向であり、第一の動向への批判を内包する。本研究は、これらの諸研究に触発されつつ、フランス語圏とドイツ語圏、カトリック圏とプロテスタント圏と分断されている研究状況を架橋し、宗教改革とカトリック改革を同時に見通す視点を獲得するべく、パリとアウクスブルクをフィールドとする二人の研究者の共同研究として構想された。

### 2. 研究の目的

宗教改革とカトリック改革に揺れたヨーロッパ近世都市の宗教・社会変容を、都市に生きる人々の視点に立ち内部のミクロな世界の分析、とりわけトポグラフィックな分析から迫ることを目的とする。

16、7世紀のパリとアウクスブルクを具体的なフィールドとして研究を進めるが、併せて、本研究で追求する分析方法を、日本を含む他地域諸都市の歴史分析に有効な方法とすべく内外の研究交流を遂行することも目的とする。

### 3. 研究の方法

1) 高澤、早川両者が採用した方法の一つは、個別都市内部のよりミクロな世界である教区へと分析のグリッドを小さくしたことである。審問記録に加え、徴税記録を用いることで、当該時期の再洗礼派の居住教区を割り出した早川の方法のように、近世都市において都市民が日常的な関係を紡ぐ場である教区内の状況から宗派を選択する個々人の軌跡を追う。

2) 教区、街区などミクロな世界をひとつの都市空間に編成する論理の変容を、時間軸の中で追う。具体的には、パリの街区の空間区分が再編されるプロセスを街区内部のミクロな関係の変容との関連を視野に入れて分析する方法をとる。

3) 日欧の都市史研究者との共同討議を通し、

都市空間を把握し、かつよりマクロな世界の中で理解する方法を比較史的検討の中で構築する。

### 4. 研究成果

1) 早川はアウクスブルク再洗礼派の軌跡を審問記録ならびに租税台帳を交差させ、彼らの居住地域のトポグラフィックな特質を明らかにした博士論文の手法をさらに精緻に追求し、口頭報告、論文の形で発表した。さらに、アウクスブルク近隣の帝国都市カウフボイレンに研究対象を拡大し、都市間のネットワークの中で再洗礼派「ゲマインデ」に関する考察を深めた。これらの研究から得られた知見は、単にドイツ語圏再洗礼派研究に資するのみならず、限られた史料状況のなかで、異なる性格の史料を交差させることで新たな知見が得られることを示している。高澤は、パリの個別街区、フォーブール・サン・ジェルマン・デプレに分析グリッドを絞り、一つのローカルな出来事（サン・ジェルマン門再開）に地域の人々が関与するありようを分析し、都市内部でミクロな権力関係が紡がれ、変容するプロセスを追った。この方法は、カトリック改革をめぐる都市民の受容、葛藤の分析に利用することができ、今後の研究の方法的足がかりを得た。現地史料調査により、サン・ジェルマン街区（サン・シュルピス教区）とならびカトリック改革の中心となったパリ右岸サン・ポール教区内部にさまざまな抗争があったことを見出すことができた。教区レベルのカトリック改革を検討する好個の事例であり、さらに分析を続けたい。

2) 高澤は、都市にとって不可避の課題であるゴミ処理という具体的かつ日常的なテーマに即してパリ全体の空間システムの再編プロセスを明らかにした。ミクロな世界における社会的結合の変化をパリ全域の空間編成の論理の変化と連動させ、中世から近代に至る長い時間軸の中で解明を試みた。この仕事によって近世都市の空間編成の特質の一端を明らかにした。

3) 本研究は、個別の研究成果を国内外の広い分野の研究者との討議にふし、都市史研究の方法の理論化を図ることを当初より目的の一つとしていた。2010年8月に、日本とヨーロッパをフィールドとする日仏の都

市史研究者との研究集会を企画・参加することで、初期の目的を達成することができた。この研究集会において問題提起を行った高澤は、日仏の史学史の検討から、異なる地域の「都市を比較する」方法の有効性と課題を明らかにした。方法論の検討に際して史学史的検討が有益であることが明確になった。研究集会の記録は、すでに一冊にまとめ、ここに問題提起ならびに個別研究のレジユメのフランス語版（一部英語）を収録した。日本の歴史学研究の蓄積の厚みと水準の高さを国際的に発信することで、今後の研究交流の基盤を作ることができたと考える。また、日本において独創性のある西洋史研究を進め、世界に発信していくためには、西洋史研究の領域に自らを閉ざすのではなく、さまざまな地域をフィールドとする研究者、とりわけ日本史研究者との不断の対話が有効であるとの認識を得た。日仏の対話の軌跡を追った史学史的論文をまとめる一方、日本史、西洋史の枠を越えた若手研究者との都市史ワークショップを立ち上げた。本報告の成果の一つとして、今後継続的に展開させたい。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 高澤紀恵「高橋・ルフェーブル・二宮—『社会史誕生』の歴史的位相『思想』1048号、2011年、120-140頁。
- ② 高澤紀恵「パリと江戸—さらなる比較のための応答『年報都市史研究（特集 都市の比較史）』18号、2011年、20-28頁。
- ③ 早川朝子「アウクスブルクにおける再洗礼派の秘密集会—租税台帳を手がかりに」『年報都市史研究（特集 都市の比較史）』18号、2011年、199-210頁。

〔学会発表〕（計4件）

- ① 早川朝子「アウクスブルクにおける再洗礼派の秘密集会—租税台帳を手がかりに—」都市史ワークショップ、2010年11月27日（世界史研究所）
- ② 高澤紀恵「都市を比較する」都市史研究会、2010年8月19日、飯田信用金庫大会議室（長野県飯田市）
- ③ 早川朝子「南ドイツにおけるシュヴェンクフェルト—アウクスブルクを中心に—」再洗礼派勉強会、2010年3月21日（早

稲田大学）

- ④ 早川朝子「カウフボイレンの再洗礼派」再洗礼派勉強会、2008年10月3日（早稲田大学）

〔図書〕（計7件）

- ① 高澤紀恵・吉田伸之・フランソワ＝ジョセフ・ルージュウ、ギヨーム・カレ編『伝統都市を比較する—飯田とシャルルヴィル』2011年、山川出版社、9-16頁「都市を比較する」。
- ② Norié Takazawa, “Comparer les villes”, dans. Comparer les villes traditionnelles: Iida et Charleville, 2011, Yamakawa-shuppannsya, pp. 35-44.  
（①の後半部分のフランス語訳箇所）
- ③ 吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市4 分節構造』、東京大学出版会、2010年、135-160頁「近世パリの街区」。
- ④ 高澤紀恵・アラン・ティレ・吉田伸之編『パリと江戸—伝統都市の比較史へ』山川出版社、2009年、11-27頁「サン・ジェルマン門の再開—アンリ4世・都市・城郊区」。
- ⑤ 森田安一編『ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶』教文館、2009年、109-136頁「再洗礼派における「ゲマインデ」形成—南ドイツの中帝国都市カウフボイレンの場合」。
- ⑥ 高澤紀恵『近世パリに生きる—ソシアビリティと秩序』岩波書店、2008年、総頁282。
- ⑦ 近藤和彦編『歴史的ヨーロッパの政治社会』山川出版社、2008年、153-189頁「近世パリのカトリック改革—聖体会を中心に」。

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高澤 紀恵 (TAKAZAWA NORIE)  
国際基督教大学・教養学部・教授  
研究者番号：80187947

(2) 研究分担者

早川 朝子 (HAYAKAWA ASAKO)  
国際基督教大学・アジア文化研究所・研究  
員  
研究者番号：40433750

(3) 連携研究者

なし